

専門学校麻生リハビリテーション大学校

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

理学療法学科

本学科では、「ディプロマ・ポリシー」に掲げた目標を達成するため、次のような教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。具体的には「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の領域を学年ごとに基礎的な科目から応用的科目へ発展するよう編成して講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. 教育内容

- 1-1) 麻生塾独自の高い倫理観と探求心・向上心を養うための社会人基礎力向上のための科目を配置する。またリメディアル教育も導入し、専門科目の理解力向上のためにリメディアル教育を実施する。
- 1-2) 理学療法士として対象者や関係者と良好な人間関係を構築するために必要な対人スキルやコミュニケーション能力（記述・表現力・議論・語学力）を養う。
- 1-3) 理学療法士に必要な知識として、専門基礎科目、基礎医学科目、臨床医学科目を配置し、身体の構造や機能、動作とともに医学一般を理解する。さらに早期よりリハビリテーション概論やそれぞれの職種の概論科目を配置し職業理解および社会の中の理学療法士の役割の理解に努める。専門的な知識・技術の修得としては疾患別に、障害の理解と展開の学修、関係する分野からの特別講義を通しキャリアイメージを持てるための教育を編成実施する。
- 1-4) 社会人として、理学療法士としてのマネジメントを学ぶ科目を配置し、自己管理から現場でのマネジメントを学ぶ機会を設ける。
- 1-5) 現在の理学療法士の職域、多様性の働き方などを学ぶと共に、今後の進化に向けた視点をつけるための講義の設置および、他職種連携も含めてグループ校との共同授業を実施する。

2. 教育方法

- 2-1) インプット・アウトプットする機会を多く設ける。他者と議論する機会が多い少人数制によるグループワーク形式の事例を活用した授業を積極的に導入する。グループには担当教員を配置し、学生個別の特性に応じた指導を

行う。

- 2-2) ICT を活用し、授業内容に沿って事前・事後課題を設定する。学習指針としてルーブリックを活用し、到達すべき学習内容を明確に提示し能動的学習を促す。
- 2-3) 専門技術の修得のために、卒業生・実習施設など臨床現場の療法士や多職種の講義・ディスカッションの機会や学外の病院や施設における臨床実習を導入する。臨床実習前後では学内で技術力の確認のため統一した評価を行う。
- 2-4) 人間力成長のために、授業内でのグループ活動だけでなく学年を超えた交流会や学外での研修を導入する。その一環としてボランティア、関係領域の学会参加、海外留学などの機会を積極的に導入する。

3. 成果の測定

- 3-1) 課題・中間テスト、各学期終了時に定期試験で評価する。
- 3-2) 客観的に臨床能力を測定するために段階的 OSCE (Object Structured Clinical Examination) を、授業科目・実習前後に実施する。
- 3-3) 実習に関しては、診療参加型臨床実習を導入し、チェックリストによる技能面や情意面の状況報告を通し、実習の経験および遂行状況を報告してもらう。学力試験、実習前後の OSCE の成長度によって総合評価を行う。

作業療法学科

本学科では、「ディプロマ・ポリシー」に掲げた目標を達成するため、次のような教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。具体的には「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の領域を学年ごとに基礎的な科目から応用的科目へ発展するよう編成して講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. 教育内容

- 1-1) 豊かな人間性と、社会人としての倫理観や一般的知識、マナーを修得するために
豊かな人間性とマナー、高い倫理観と探究心・向上心を養うために麻生塾独自の「G C B」教育をベースに、社会人基礎力を修得する基礎科目を配置する。また、高校で得た知識に加え、専門科目を理解するために必要な知識を修得するための基礎科目やリメディアル教育を配置する。

1-2) コミュニケーション能力を修得するために

社会人として良好な人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力（記述・表現力・議論・語学力）を養うと共に、その背景にある人の心理を理解するための科目を基礎科目として配置する。

1-3) マネジメント能力を修得するために

各学年で必要な知識を自ら計画を立て、修得していくことができるよう基礎医学から臨床医学へと段階的に学びを促す科目を配置する。また、働いていく上で必要なセルフマネジメント能力や作業療法士に必要なマネジメント力を修得するための科目を配置する。

1-4) 医学的知識と作業療法の専門知識・技術を修得するために

医療専門職に必要な知識として身体の構造や機能を理解する科目と共に、疾病を理解する科目を専門基礎科目として配置する。作業療法専門科目については、作業療法の理念・定義や理論を修得し、専門的な知識・技術の修得としては作業療法評価学や各障害の作業療法学を配置する。段階的に職業理解が進み、臨床場面でのキャリアイメージが具体的に持てるようにする。

1-5) 多様性を尊重し地域で活動する力を修得するために

地域社会における作業療法士の役割や、多職種連携を学ぶ科目を配置する。また、身近な視点から多様性社会やグローバル社会まで、リハビリテーションの使命を考える事が出来るように麻生塾独自の「G C B」教育を配置する。キャリア教育としては、病院・介護施設などの施設見学や評価実習・臨床実習を1年次から最終学年まで段階付けて計画的に配置する。加えて、地域包括ケアシステムに貢献できる人材を育成する為「地域包括ケア実習」を実施する。

2. 教育方法

2-1) 問題解決能力や他者と協働する力を高めるために

講義でインプットした知識を他者へアウトプットとする機会を多く設ける。他者と議論をする機会が多い少人数制によるグループワーク形式の授業を積極的に導入する。また、クラス担任制により学生個別の特性に応じた指導を行う。

2-2) 自己学習能力を高めるために

能動的学修を促す。講義内での取り組みに加え、事前事後の学修課題を管理するため、授業内容に沿って事前事後課題を明確に提示する。また、インターネットを活用したeラーニングシステムを積極的に活用する。課題の自己管理能力を高めるためホームルームにて指導を行う。

2-3) 確かな技術力の向上のために

高度な専門技術の修得のために、学外の病院や施設における臨床実習を導入する。臨床実習前後では学内で技術力の確認のための評価を行う。

2-4) 職業を通して社会に貢献する自覚を高めるために

卒業生など臨床現場の作業療法士や多職種の講義・ディスカッションの機会を設ける。地域と多様性社会、グローバル社会に関しては、ボランティアへの参加、海外留学などの機会を積極的に導入する。

3. 成果の測定

3-1) 授業内評価または各学期終了時の定期試験で評価する。

3-2) 客観的に臨床能力を測定するために少人数による OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を実習前後に実施する。

3-3) 実習に関しては、診療参加型臨床実習を導入し、実習指導者に情意面を評価してもらい、知識・技術面は、実習課題の遂行度、学力試験、実習前後の OSCE の成長度によって評価し、その他出席なども含め総合評価を行う。

言語聴覚学科

本大学の「教育理念」「行動指針」を実現するために、言語聴覚学科の特色を生かしたカリキュラムの提供を行う。具体的には、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の領域を学年ごとに基礎的な科目から応用的科目へ発展するよう編成して講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. 教育内容

1-1) 豊かな人間性と社会人としての倫理感や一般的知識、マナーを修得する。

豊かな人間性とマナーを修得するために麻生塾独自の GCB 教育、高い倫理観と探求心・向上心を養うための社会人基礎力向上のための科目を配置する。また、高校で得た知識加え、専門科目を理解するために必要な基礎科目に加えリメディアル教育を配置する

1-2) コミュニケーション能力を修得する。

言語聴覚士として良好な人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力（記述・表現力・議論・語学力）を養う。患者様と御家族、チームとの円滑かつアサーティブなコミュニケーション態度を養う。

1-3) 医学的知識とリハビリテーションの専門知識・技術を習得する。

言語聴覚士に必要な知識として、専門基礎科目、基礎医学科目、臨床医学科目を配置し、身体の構造や機能を理解するとともに医学一般を理解する。

さらに早期よりリハビリテーション概論やそれぞれの職種の概論科目を配置し、リハビリテーションや専門職の歴史や理念仕事を理解し、職業理解に努める。専門的な知識・技術の修得としては言語聴覚障害別に、障害の理解と展開の学修を通しキャリアイメージを持てるようにする。

また、1年次より早期臨床体験として病院や介護施設見学、段階的 OSCE を実施していく。

1-4) 自己管理能力を修得する。

各学年で必要な知識を自ら計画立て、習得していくことができるような教育活動を行う。また学年を超えた学生主体の行事を実施する。

1-5) 国際的視野をもって地域で活動する力を修得する。

地域社会におけるリハビリテーション専門職の役割や、多職種連携を学ぶ科目として地域系の科目を配置する。またグローバル社会への対応として、身近な視点からグローバルな視点で、リハビリテーションの使命を考えることができるように麻生独自の「GCB」教育を配置する。キャリア教育として、病院・介護施設などの見学、段階的臨床実習を1年次から最終学年まで計画的に配置する。

2. 教育方法

2-1) 問題解決能力や他者と協働する力を高める。

講義でインプットした知識を他者へアウトプットする機会を多く設ける。他者と議論する機会が多い少人数制によるグループワーク形式の授業を積極的に導入する。グループには担当教員を配置し、学生個別の特性に応じた指導を行う。

2-2) 自己学習能力を高める。

能動的学修を促す。事前事後の学習課題を管理するため、授業内容に沿って事前事後課題を明確に提示する。また LMS を積極的に活用する。

2-3) 確かな技術力向上。

高度な専門技術の修得のために、学外の病院や施設における臨床実習を導入する。臨床実習前後では学内で技術力の確認のための評価を行う。

2-4) 職業を通して社会に貢献する自覚を高める。

卒業生など臨床現場の療法士や多職種の講義・ディスカッションの機会を設ける。地域とグローバル社会に関しては、ボランティアへの参加、海外留学などの機会を積極的に導入する。

3. 成果の測定

3-1) 各学期終了時に定期試験で評価する。

- 3-2) 客観的に臨床能力を測定するために段階的 OSCE (Object Structured Clinical Examination) を実習前後に実施する。
- 3-3) 実習に関しては、診療参加型臨床実習を導入し、実習指導者とルーブリック評価を共有し、評価をしてもらう。知識・技術面は、学力試験、実習前後の OSCE 等を総合的に評価する。